

# Amett, J.J (2014) Emerging Adulthood

:The Winding road from the late teens through the twenties.

(2ed) Oxford University Press.

聖徳大学大学院児童学科 山上寛子

## Chapter 4 Love and Sex PP.83-113

### 第4章 愛とセックス

New Freedom, New Problems

## 新しい解放, 新しい課題

アメリカ社会において、多くの若者は20代後半に結婚するまでの間に、10代後半～20代前半で恋人選びについてよく考え、恋に陥り性的体験をする。彼らは多様な人たちと接して結婚を考え、どんなに恋愛関係を持つべきかどんな人が最適な結婚相手なのかを自分自身で明らかにする。

10代の若者の恋人との恋愛関係は20代前半まで続いて結婚に行きつくが、その恋愛が病的な思い違い(錯覚)だと気付かされ、長い人生における困難な道へと導かれる。特に、別の恋人(一人の相手)との恋愛体験をしなかった人は、一人との恋愛関係の視野が狭く限定されていた事を思い知らされて、彼らの結婚が失敗だった事に気付かされる。



若者は結婚を取りきめる前に、多くの人との愛情やセックスを追い求めるのが最近の動向であり、新しい現象でもある。

- ・別な相手との恋愛関係は、結婚相手を真剣に探す準備のためにはごく普通の事であり必要な事であることを若者は確信している。
- ・ほとんどの若者にとっては、意識してわざわざ他の恋人を探し求める必要はない。彼らは、多くの人との恋愛関係の機会を切望しているからである。

**20世紀の初め** アメリカ社会における一般的な中間層の恋愛は、"Calling"「天命」(神様に決められた事)であった。若い男性は、彼女の招きで若い女性宅を訪問した。そこで、彼女の家族と出会い、若い二人は居間で彼女の家族と一緒に過ごすことを許された。彼らはおそらくなにか、彼のために用意された食事を取ったり、彼女がピアノを弾いたりして、皆で話をした。

- ・この様に過ごすことは、表面的には当たり障りのないように見えるが、実は深刻な危険

をはらんでいる。若い男性は、彼女の家だけで他の女性宅を訪れる事はない。

- ・結婚前に性的関係を持つ事は強く禁止されていた。若い女性の処女は宝石や宝物のように素晴らしく価値あるものとされ、結婚の夜、最愛の夫にのみ授けられるべきであるとされていた。
- ・結婚まで純潔でいなければならない(性的関係を持つてはいけない)というタブーは厳しすぎて、若い男性は結婚前に売春婦やご法度をこっそり見逃してくれる女性と性的関係を持った。それにもかかわらず、若い男女の性行動は義務としての慣習をしっかりと守り、セックスは結婚まで制限された。

**1920年代** 若者が彼女宅以外でデートするようになるにつれて、今迄の常識が一変し彼女の家以外でデートすることが一般的になった。恋愛の場所は家から解放され、レストラン、映画館、ダンスホールやその他の公の場所でデートされるようになった。

- ・若い二人は彼女の家族から監視される事なくのびのびと車の中でセックスが出来るようになった。
- ・1920年代は「最初のセックス革命」の時期と呼ばれ、結婚前のセックスに対する厳しいタブーが解かれて、ネッキングやペッティングは婚約中に好ましく満足できる行為であるとされてきた。

**1920年代から1960年代** デートでの性的行為に性交が取り入れられる事が一般的となった。

- ・この時期の最も注目する変化は、結婚の低年齢化であった。男性の結婚平均年齢は、1920年には24.6才だったが1960年には22.8才に、女性は1920年には21.2歳であったが1960年には20.3才になった。
- ・結婚年齢の低下に伴い、デートも更に低年齢化するという危険をはらんでいた。1950年代には、高校生の若者が婚約し卒業間もなく結婚するという事態が起こり始めた。
- ・大学に通う成長期の若者には、大学生活は教育を受けるためだけではなく連れ合いを見つけるためとしても活用された。
- ・何人かの若者は20代前半を待たずに結婚に至るようになった。婚前交渉はある程度一般的になってきており、約40%の大学生が1950年半ばには少なくとも1回又それ以上性交渉をもつと報告されている。

**1960年代と1970年代** 若者が愛と性の両方の体験をしている段階である。ウーマンリブの女性解放運動の過熱化した中で、伝統的なデートのパターンは形式的ではなくなってきた。

- ・若い男性が若い女性を求める場所も、選ぶ出来事も、報いる色々な事全ておける解放
- ・性的行為に対する以前の制限は、今では抑圧的で病的であると認識された。
- ・出産をコントロールするピル(経口避妊薬)の開発が容易に行われ、若い女性は妊娠の心配なく婚前交渉を行えるようになった。

**1970年半ば** 婚前交渉をしているアメリカの大学生の割合は75%に達した事が報告され、結婚平均年

齡は低年齢化から一変し 21 世紀初めにかけて着実に平均年齢は上昇し始めた。

- ・ 10 年かそれ以上かけて、最初のデートから結婚について考え始める期間が伸びた。
- ・ 10 代や 20 代前半の若者は社会学者が言う「短期間の結婚生活」を実行している。この関係は一連の独裁的な恋愛関係で一般的にはセックスを含んでいる。*Serial Monogamy*

この第 4 章では、若者の恋愛とセックスを多種の側面から検討する。まず、アメリカの若者がどのようにして恋人に出会うのかその方法を探っていく。恋人選びのための、人種的な素情が役割、性的関心性的魅力、避妊、性行為感染症、ポルノを愛用、ゲイやレズビアンを経験が有るかどうかを検討材料としている。

## Meeting Someone 恋人との出会い

### I 学校や職場の同僚や家族を介しての出会い

恋人となるかもしれない相手との出会い…以前から長い間行われてきた。

- ・ バーやパーティーや教会の集まり、職場や学校は出会いのチャンスが有る。
- ・ 大学は同世代の若者が集い、日常的な共通基盤があってその共通の基盤は多くの出会いの機会を彼らに与えてくれる。そこでお互いが知り合い後日再開の約束をし合うことが可能である。

### II インターネットを通して出会う方法…新しい方法

2009 年の調査によると、2007 年から 2009 年の間にインターネットを通して知り合った人たちの 22%は恋人関係になるが、その関係が長く続くのは僅か 3%であると報告されている。若者はテクノロジーを駆使して画面の中で多くの出会いの好機を探し求めている。

- ・ 若者の中にはインターネット上で相手と話し出あった人たちがたくさんいる。彼らは（こうして相手と出会っても）それにとどまる事をせず、「さあ、もっと出来るぞ。」と言ってインターネットで検索を続ける。
- ・ もっとも著名なインターネットのデートウェブサイトは 1000 万人の加入者が有り、更に毎週数万人の加入者が増加している。
- ・ アジア人用、アメリカ人用、カトリック用、ユダヤ人用、そして、同性愛者やレズビアン用の特定サイトすら存在する。
- ・ いくつかのサイトは無料だが、多くのサイトは月単位で有料のサイトである。
- ・ 加入者は、学歴や余暇の過ごし方や趣味などの仕事以外の活動、どんな人を恋人として最も探しているのかなどの個人情報を提供させられる。性格テストを受ける志願者を募集するサイトも存在する。ほとんどサイトは、写真を伴ったオプションが有る。サイトのコンピューターは似ている性格の人と加入者を適合させ、デートへの賭けを始める（デートしてみるよ

う勧める)。

- ・インターネットデートサイトは若者に容易に新しい人との出会いを提供する。しかし、インターネットの背後にある現在の思い(心)は見えない。

## **Becoming Partners パートナーになる事**

**I 恋人同士は愛情の共通の根拠を形作る…人間性、知的能力、社会的階級、人種、宗教観、身体的特徴などにおいて特有の共通性がみられる。**

### **Consensual validation**

- ・恋人どうしが似ている事はお互いにとって好ましい事であると言える。異なった考えや好みを持つ事は、対立が生じ、ぶつかり合って好ましい事とはいえない。お互いが似ているという事は、相性の良い恋の相手をもたらし、会う機会を与え親密な関係が始められる。
- ・同じくクラスで学んでいる学生は、授業という課題の中で共通の興味や関心を共有する。同じ教会やお寺、モスクに心を向け、おそらく同じ宗教上の見解を持つ。お互いに似ている 2 人の若者は、この集まりで大勢の中から選び出される。

## **II 人種が同じと言うこと…2 人の若者が関わりを始めるための最も重要な要素の一つ**

対立が長く続き混乱したアメリカ合衆国の長い歴史の中で異なった人種間の結婚は、多くの州の法律で禁止されてきた。

**1967 年**によようやく、最高裁判所の法廷でそのような法律は違法であるとされ、16 州がこの法律(多人種間の結婚禁止の法律)を無効とした。人種間結婚のカップルが普通に見られるようになった。

**1980 年代**にはたった 7 パーセントであった異民族のカップル現在のアメリカ合衆国では 15% の異民族のカップルがみられるようになった。しかしながら、異人種間の結婚の割合は実質的には異っていた。純粋なアメリカ人同士の結婚は異人種間の結婚に比べて最も多く、50% を少し超えている。アジア系アメリカ人は次に多く、その割合はおよそ 28% であり、続いてラテン系アメリカ人は 26%、アフリカ系アメリカ人は 17%、白色人種間の結婚は 9% であった。



異人種間の結婚が増大しているにもかかわらず、多くの地域では人々は未だかつて自分と同じ人種の人から自分の結婚相手を選んでいる。

**III 自分と同じ人種が結婚相手を選ぶ理由~その 1~…若者は自分の地位の範囲からみつける事がしばしばあり、社会的地位の構成は大方彼ら自身と同じ人種から成り立っているからである。**

- ・異民族間の結婚について、国の統計の研究成果に注目してみると、アジア系アメリカ人の多くは、おそらく、自分と同じ人種外の恋愛相手を見つけるが、白色人種はその傾向が最も少ない(自分と同じ白色人種を恋人に選ぶ)。アフリカ系アメリカ人とラテン系アメリカ

人はその中間である(そのどちらでもない)。

**IV自分と同じ人種が結婚相手を選ぶ理由~その2~…異人種間では文化的意識の違いを自覚しなければならぬし、同じ人種間では打ち解けた心地よさを感じる人が多いからである。**

- ・若いアメリカ人は年配の世代のアメリカ人よりも異人種間同士の結婚に違和感がないという見解がある。18歳から21歳の若者の85%が異人種の人との結婚について、家族の意見を聞く事はないと報告されている。
- ・若者は一般的に、人種のいかに関わらずその人の人格が最も重要であることを確信している。

### **Sex: New Freedom , New Problems セックス：解放とその課題**

**1960年代**と**1970年代**のセックス革命は、若い女性が結婚まで処女でとどまっているという長く続いた考えを価値のない物として打ち砕いた。

**1920年代の初め**から始まったセックス革命は結婚前の性的行為が一般的になる過程。

**1960年代から**は、結婚までの処女性はほとんどの若者の理想論となり、実在しなくなった。

- ・現代の若者は、自分達の社交的で性的な行動に規制が有る事など想像できない。
- ・彼らは10代後半から20代前半に達する年齢になると、大人が侵害する事の出来ない私的な自治権の範囲が広がると確信する(大人に制限されることなく自主的に行動できる範囲が広がったと考える)。
- ・結婚まで処女でいるという古い決まりは、時代遅れとなった。
- ・しかし、新しい決まりがどういうものなのかは厳密には明らかではない。
  - ①結婚前のセックスは承認されてはいるが、何歳から許されているのだろうか。
  - ②将来の配偶者以外の人とも、何人の相手とも承認されるのだろうか。
- ・これらにこたえるためのアメリカ社会における指針が明らかではなく、若者は混乱せざるを得ない。

#### **I 「利害関係のある友人関係」が一時的な恋愛へと変化…恋愛関係を含まない性的関係を持つ**

- ・この様な関係は普通長くは続かず複雑になる。
- ・相手は関係について話すことを避けその関係は考え違いやあてにならない関係になっていく。

#### **II 若者の性に対する見解には男性と女性で幾分食い違った見解がある**

- ・結婚していない 20 歳から 29 歳を対象とした国の調査では、男性は 65%、しかし女性は僅か 41%の人が結婚しようと思わない人とのセックスに賛成している。
- ・18 才から 29 才の若い男性の 52%が「感情面で気持ち不一致の人とでも 2 人が性的関係を持つことを承認する」という質問に賛成したが、それに対して若い女性の賛成はたった 33%であった。
- ・男性も女性も結婚後には大部分が一致して精神的な連れ合いとして相手を見るようになる。
- ・結婚前の若い男性はもっと気晴らしのためにセックスを求める一方、女性は、感情面の親密関係をセックスの中におそらく求めている。

## How Young Is Too Young ? 若すぎるとはどのくらいか？

若者が初めての肉体関係を持つのに適した時期は不確実である。報告によると、15%の若者が結婚前の 16 才のセックスを承認しているが、18 歳で承認する割合は 55%である。

### **I 若者の多くは自分の初めての性体験を「若すぎた」と後悔している。**

成人の多くは 14 歳から 17 歳の若々しい青年期に初めての性交体験をしている。疾病抑制中央施設 (CDC) によると、アメリカ合衆国の最初の性交体験の平均年齢は 17.1 才である。しかし、筆者の独自の研究によると若者の 70%は自分の最初の性交体験は若すぎる時期に起こったと今でも確信している。



結婚前の性交は「悪い事だ」という当然の信念から成るものである。  
 彼らが行ってきた事の意味を正しく認識するためには、彼らの 10 代は未熟過ぎたという事を、今となって彼らがよくわかるからである。  
 思春期には賢明で重要な決定をする事がまだ困難であることを確信している。

しかし、18 才かそれ以上の年齢まで性体験をのばした人は、誰も後悔していないことを述べている。

### **II 愛情関係のある最初の性交体験を持つ事は、若い女性にとってはとくに価値ある事である。**

女性の半分は最初の性交体験の主な理由は相手への愛だと述べているのに対して、男性は 4 分の一がそうであると答えている。

### **III 多くの若者は、最初の性体験を特別な人との本当の愛のために使う事を望む。**

- ・セックスは結婚生活の中で有るべきであるという伝統的な心情を持ち続けている。
- ・この心情は分別が有り、良心的に貞節なものであった。

- ・ほとんどの若者は性的行為が特別な人との関係で行われる事がベストであるとは考えている。
- ・保守的で良心的な心情を持っている人は、例え特別な人との関係でも結婚まで待つべきであると考えている。

## Contraceptive Use, Some of the Time 避妊薬の使用について

科学技術の進出が結果として赤ちゃんを作ることなしに性行動を可能にした。

- ・若い人たちが子どもを作ることなしに積極的な性生活をすることが可能となった。
- ・結婚しても最初の子供を持つ事を 20 代後半か 30 代前半までも伸ばす事が出来るようになった。
- ・ピルの開発は、間違いなく性交における見解に、繁殖率に（子供が出来る確率に）、そして、女性の役割にとつともなく大きな重要性をもたらした。
- ・ピルは「セックス革命」と「女性解放運動」の一致した重要な役割を持った。

しかし、結婚していない 18 歳から 23 歳のアメリカ人のうち、たった 72%がもっとも最近のセックス体験に避妊薬を用いた。もっと詳しく言うと、たった 51%が「毎回（いつも）」避妊しており、37%は「ほとんど」あるいは「半分くらい」と報告し、12%は「全く使用していない」と報告している。

つまり、



結婚前の 18 歳から 23 歳の性的行動の半数は予期されない（計画されない）妊娠のリスクを伴っている。

### 避妊しない多くの理由

- ①ピルを信用しない理由の多くは、身体に害が有るとか、ホルモンの影響に及ぼす感情的効果がよくないとか、たくさんの理由が有る。
- ②コンドームは、特に若い男性にとって性的満足を減少させると思われており、雰囲気を作りたいときには入手しない（使用しない）。
- ③飲酒の上で起こる若者の実質的な性交の比率は、妊娠を避けるための必要な予防策を用いるのに適した状態ではない事が報告されている。

## The Specter of STIs 性病感染への不安

若者にとってセックスにまつわる性病感染の脅威の不安がわき上がってくる。特にエイズ[後天性免疫不完全症候群]への心配である。若者は、治療不可能な致命的なウイルスに感染する不安から、性病検査を受ける。

**梅毒**は、1940年代ペニシリンが発明されるまでの数世紀に及んで、エイズと同じような恐怖を運んできた。梅毒はエイズよりももっと容易く感染する。しかし、結婚しないセックスの厳しい社会の規制により、多くの人々の梅毒感染の可能性は少なくなった。結婚しないセックスの流行によって、セックス革命の余波により、**エイズ**が発生している。若者はこの脅威に対して、多くの方法で対処してきている。何人かの人たちは、掛かった人自身だけでなく、他の人へも移される脅威が有ると考えている。

- ・エイズを相当危険なものと考えてはいるが、セックスで有られる満足の大小のリスクとして、受け入れている。
- ・エイズ恐怖について考える事は、若者のセックスへの意識をしっかりとさせる。そして、その意識は、彼らとパートナーに、性交の方法やセックス自体の考えをしっかりとさせる。
- ・いくつかの研究によれば、若者の性的行為は、エイズの表れと共に変化がみられるようになった。コンドームの使用は明らかに1980年代後半から、高校や大学の学生の間で伸びた。全米健康本部によれば、15歳から19歳のコンドームの使用率が、女性では1988年に31%だったのが2006年～2008年には55%に、男性では1988年に53%だったのが2006年～2008年には79%に成ったと報告されている。
- ・それでもやはり、彼らの性行動に全く責任を持たない若者はたくさんおり、相当多くの比率の人が少なくとも性病にかかるリスクを持っているといえる。

若者の間で、エイズに次ぐ一般的な感染症は**クラミジアトリコモス**感染症である。症状は放尿と成功の間痛みを伴うが、時にはまったく症状のない場合もある。そのウィルスへの治療は、抗生物質が有効である。しかし、もし女性で見過ごされた感染者がいたら、炎症性の病気である原発性免疫不全症候群を発症する可能性がある。そして、事実上の不妊になるケースがある。クラミジアは女性を不妊へと導く。感染の確立もまた高い。男性は25%、女性は4分の3が、感染した相手の挿入部から病気に感染する。それは、クリスマスのヒイラギのような不幸な運命である。

## *Pornography :New Technologies, Old Questions*

### ポルノ：新しい知識、古い課題

若者性的成熟期に達すれば、セックスに興味を示すことは大いに理解できることである。

若者がポルノを見るのが、性欲や性的関係にどんな影響をもたらすのであろうか？このテーマを扱ったいくつかの研究によると、日常的にいつもポルノを見ていると、セックスに対する意見や考えをよく話すという結果が明らかになった。

- ・一般的でないセックスの形態における快樂や流行を過大評価すること。
- ・一人の男性や女性を愛し続けることが非現実的でなく一般的でないこと。
- ・愛情や結婚が悲観的な判断であると考えること。



しかしながら、マスメディアの扱うすべての研究報告では、上記のような心情や態度は警戒視すべきであると解釈されている。だからと言って、ポルノを見ること自体人がセックスへの意見や考えを持ったり持つ準備ができたりしていることを意味するのだろうか。インターネットへのアクセスが、これほど簡単になっている現在、若者がポルノを見ることはより普通のこととなっていることに疑いはない。

## ***The New Homosexuality* 現代の同性愛**

近年、レズビアンやゲイ、それに両性愛者に対する姿勢が劇的文化的に変わってきていることは事実である。ゲイやレズビアンは大衆文化の中に入り、もはや性的に偏見を持たれなくなった。両性愛者の数人は、政府の高官に選ばれている。政府は同性愛者同士の結婚を保護し、同性カップルを認めた。そして、ゲイの人たちは公然と群の高い地位に配属され、まだ昇進し続けている。例えば、2013年の国の統計によれば、18歳から29歳の若者のうち81%が同性愛者の結婚を支持した。しかし、65歳以上の人たちの44%は断じて拒否する姿勢を示した。

その結果、同性愛者の若者は今日では新進の人となった。同性愛者はアメリカ社会ではまだ賛否両論されているが、急速に容認されてきている。同性愛者は、同世代やそれ以上の年配の人たちからの同性嫌悪を受けやすくはない。それでも両性愛者を受け入れる程度は、今日、強調されている。アメリカ社会の保守的な人の多くは、同性愛者を道徳的に悪と見なし、法を犯し神を冒瀆するものとしてみなし続けている。両性愛者の体験は若者は多く依存しているが、ニューヨーク等イングランド州北部の都市部や、南部の田園地帯で非常に好意的な反響がある。若者がゲイやレズビアンの体験をするのはよい時期である。

遅かれ早かれ、若者世代の人間は、性的多様性を模索する時期であるから。18歳から23歳を対象とした公的な研究によると、18%の若い女性と7%の若い男性が同性に性的魅力を感じており、少なくとも、そのうちの14%の若い女性と5%の若い男性は同生徒の性的関係を1回は持ったことがあると報告されている。

しかし、そのうちのたった1%の女性と2%の男性だけがレズビアンとゲイと認められた。(あとは、一時的な興味のみ)ゲイやレズビアンの特徴として、一般的に思春期の成長が他より早いことに気づかれ始めている。ほとんどの両性愛者は、同性への魅力を思春期早期に感じており、両性愛へのデビューのプロセスは、たいてい16歳前後から始まる。そのデビューとは、自分の同性への性的な歪みや異常さを、自分の近い友達に話すことで暴露されることである。

## ***Conclusion: The Perils of Freedom* 結び：束縛のないということの危険**

今日若者は、先例のない(これまでの歴史にはなかった)自由を愛とセックスによって得ている。以前の世代にはなかったように、彼らがどのように会い、どのようにお互いを知るかを指示する性的な決まりに束縛されてはいない。男性が誘って女性が応じる、また、女性が言い出すこともある。彼らはお互いに友達として時を分かち合い、そして、お互いに仲良くなって、友達から恋人への境

界線を越えることを決める。彼ら二人が一緒に時を過ごすことが不適切であると、誰も、不満を言う人はいない。全く、以前の世代とは異なった人種と恋に落ちることも禁止されてはいない。偏見は、もちろんまだ存在するが、以前の世代がそうであったように、彼らは神聖でも不法でもない。ほとんどの若者は、いまだに、恋人を自分と同じ人種から選ぶ。その理由の一部は、同じ社会団体で同じ教養の基盤を分かち合うことができるから。別の一部は、長い間に人種偏見の結果からである。しかし、以前にも増してますます、人種を超えて若者は恋人を選ぶ。同様に、両性愛者の若者は、以前よりも自由に同性の恋人を見つけられるようになっている。同性愛嫌悪はいまだに存在しているが。性行為においてもそうである。今日の若者は、半世紀前には想像もできなかったほど解放されている。

若者の多くは、10代後半から、性的相手を結婚に結び付けている。ほとんどの場合、性的な相手は、ほとんど知らない相手や、単にあっただけの相手ではなく、良く知った親しい人間関係を継続している相手である。ほとんどのアメリカ人は、若い男女が20歳ころ恋愛中に性的関係を持ち、たとえそれが結婚に結びつかなくても何も悪いことだとは思わない。この新しい考え方は、特に、女性の間で著しい。彼らは過去においては、結婚前に性的な行動をしたことが知られて、軽蔑されたり、追放されたりして来ていた。たとえ、愛情があつてのことだったとしても。同様に、ほとんどの若者は、成り行きでなくよく考えて同性愛の相手を見つけることに異議を唱えない。

若者の新しい自由は、今までになかった危険が懸念される。彼らは、結婚前に多種多様な性体験さえも許されてはいるが、多くのアメリカの若者は一貫して絶えず否認しているわけではない。そして、予期せぬ妊娠が当然の成りゆきとして起こる。おまけに、エイズの感染という漠然とした不安が、彼らの性行動の開放には加わっている。いかなる若者もエイズに感染するようなことはしないが、彼らの多くはエイズや性感染症を意識せずに性行動している。エイズ以外の他の感染症は、致命的ではないにもかかわらず、心的外傷を与え、彼らの性的生活に暗い影を投げかける。

彼らが、自分たちの愛を探求していくためには、大きな危険がある。過去の世代の人に比べて彼らは恋人を求めるのに、求愛行動の制限から、デートの決まりから、他の人種との境界線を越えた恋愛の禁止から、解放されてはいる。しかし、それは、正しい恋人選びやほかの何かをもっとたやすくすることを意味することではない。若者が、ふさわしい人生の伴侶を結婚相手として探し始めるとき、これは断じて真実だと言える。この話題については、次の第5章に私たちはページをめくることとする。